



# Press Release

2015年11月3日付 NCR コーポレーションのプレスリリースの抄訳

2015年11月11日

報道関係各位

日本 NCR 株式会社

## カードビジネス、ネットバンキングビジネスをサポートする 高性能不正検知ソリューション **Fractals** の最新版提供開始 ～最新版では、機能強化に加え、リスクの度合いに基づく認証機能、 そして、オンライン/モバイル・バンキングの不正検知機能を搭載～

NCR コーポレーション (NYSE: NCR) は、企業向け不正検知ソリューション **Fractals** の最新版の提供を開始しました。最新版は、新たにネットバンキング不正検知機能、新不正管理機能、ユーザー・インターフェースの機能拡張を行っています。今回の新リリースでは、NCR が最も重要視する **Fractals** の既存ユーザー企業コミュニティからの声をうけ、ユーザーの直面するニーズに対応する多くの新機能が追加されています。

新たに追加された機能により、**Fractals** の高性能な不正検知機能が、ネットバンキング及びモバイル・バンキングの領域に適用されます。決済や送金などの金融取引処理の監視をはじめとし、**Fractals** は、口座への不正の可能性のある、ログインの試み状況、個人データの内容変更、不正口座の可能性のある新規受取人の作成を含む金融取引以外の処理のシステム監視も行います。

**Fractals** の最新版は、柔軟なトランザクション及びイベントのマッピングを含む新たなデータ送受信方法を複数提供し、統合に関する選択肢を更に拡充しています。NCR は、ユーザー企業における不正対応チームの業務効率化を主眼に置いて、ソリューションの開発/改善に尽力しています。その一環として、柔軟な不正タグ付けバッチ処理、異なるシステムを横断したデータへのアクセスをよりシンプルかつ迅速に実行できるようになりました。また追加されたツールにより、システム内に存在するルールが個別の顧客データとどの様にコミュニケーションを取るか等の細かなチューニングを実現いたしました。これにより、**Fractals** ユーザーである監視業務担当者が、合法的な取引を停止し、顧客との関係を悪化させずに迅速な不正防止を可能とします。最新版は、容易な言語の更新を含む柔軟なカスタマイズが可能で、日本語版の提供も開始しました。

IP インテリジェンスとデバイスの評価を提供する二つの新しいデータ・プロバイダーを統合し、最先端の不正対峙戦略の根幹を司る **Fractals** 不正インテリジェンス・ハブが拡張されました。NCR は、顧客が活用できるインテリジェンスを限定/ロックインする事なく、顧客の要望に対応し、他の情報源からのデータ統合を可能にします。

「不正対応チームの方々には、変化する不正トレンドを敏感に感知して、お客様への影響を最小限に抑えるというミッションのプレッシャーが常にのしかかっています。多くの場合、ユーザーにとって不正対応ツールは複雑で扱いにくいものです。我々は、**Fractals** が最大限の柔軟性と操作性を提供する事に注力しています」と、NCR 金融サービス事業部ペイメント事業バイズ・プレジデントのスティーブ・ノガロは説明します。「**Fractals** の最新版は変革を遂げました。我々は、最前線で不正と戦う監視業務担当者の方

達に最大限のサポートを提供する事を目的に設計を行いました。なかでも、充実した新機能と優れたユーザー・インターフェースの提供に尽力しました」

**Fractals** は、ユーザー企業が **NCR** への依存を余儀なくされる事無く、自社システム全体に対する戦略的コントロールを保てる様に設計されています。この高い独立性は、**NCR** に都度設定変更の依頼をかけることなく、ユーザー自らいつでも必要に応じて新しいルールを適用できる事を意味します。**Fractals** は、自己学習機能を含む統計モデルとユーザー自身が定義するルールの組み合わせにより、あらゆるタイプの不正トランザクション問題に対処します。**Fractals** は、グローバルで様々なリテール系決済事業者 ～イシューア、アクワイアラー、処理代行業者、加盟店～ に活用されています。

これらの事業者が展開する様々なペイメント・サービス商品及び付随する提供チャネルに対して、包括的に不正検知/防止を実施します。

**Fractals** は、ルール領域に先進技術に加えて、あらゆるサイズのデータセットから正確に不正を特定する為に、ベイズモデリング手法を採用しています。当手法により **Fractals** は、新たな不正パターンの台頭、そして変化を自ら学習し適応していく事が可能となりました。検知の「偽陽性」を最低限に留めながら正確な検知率を最大化する事により、正規のトランザクション処理をブロックするリスクを最小化し、カスタマー・エクスペリエンスの改善に貢献します。